

2012年12月2日 第21回 川口カップ 会長杯男子決勝戦

【白】 F F Fファイヤーズ (以下、F F F)

【青】 川口じりんMBC (以下、じりん)

F F Fは、去年優勝に続き連覇を懸け、また、じりんは川口カップ初優勝、そして、川口市代表のプライドを賭けた戦いとなった。

<第1ピリオド>

試合開始、F F Fのディフェンスはハーフコートマンツウ、じりんは、1-3-1ゾーンでスタートした。

じりんは⑥番・⑧番からの長身を生かしたハイ・ローを中心に攻める。

それに対しF F Fは、厳しいプレッシャーからのターンオーバーからの速い展開からの速攻と⑧番を中心とした攻めで、両チーム一步も引かない展開が繰り返され、8-8の同点で第1ピリオドが終了する。

<第2ピリオド>

F F Fは、第1ピリオド同様、ハーフコートマンツウ、それに対しじりんは、2-1-2ゾーンで第2ピリオドをスタート。

じりんは④番のボールコントロール・ミドルシュートと⑦番の長身を生かしたオフェンスリバウンドからのシュートで着々と得点を重ねていく。それに対しF F Fは、④番からのカットインで攻めていく。

一進一退の攻防が繰り返されるが、ゴール下を支配したじりに分があり、13-19でじりんが6点リードして前半を終了した。

<第3ピリオド>

後半、F F F・じりんともに第2ピリオドからディフェンスは変えずにスタート。

じりんは、④番のボールコントロールからミドルシュート、そして前半同様、長身を生かした⑥番・⑦番のハイ・ローを中心に攻める。それに対しF F Fは、④番・⑥番のカットイン・⑧番のハイポストからの攻めを中心に繰り返すも、じりんの高さに苦しみ攻め手を欠く。

ゴール下を支配したじりんが徐々に点差を広げ、21-32でじりんが11点リードし第3ピリオドを終了した。

<第4ピリオド>

勝負を賭けた最終ピリオド。

序盤、F F Fがターンオーバーからの速攻で着々と点を重ねていく。

ゴール下の戦いは、F F Fの⑧番が入れると、じりん⑥番が入れ返す一進一退の攻防が続く。

残り4分、F F Fが前から激しいプレッシャーをかけ始めると流れが変わる。じりんがボール運びに苦しみだし、徐々に点差を詰め、残り3分で5点差となった。堪らずじりんはタイムアウトを請求する。

タイムアウト開けも、F F Fの勢いは止まらず残り2分で3点差。

そんな劣勢の中、じりん⑩番が渾身のミドルシュートを決め再び5点差とした。

しかし、最後まで諦めないF F Fは⑧番がフリースローを得るも1歩及ばず34-40でタイムアップ。

じりんは川口カップ2度目の決勝進出で嬉しい、嬉しい、初優勝を飾った。

一方、激闘を演じた大会史上3チーム目、7年ぶりの連覇を目指したF F F、あと1歩というところまで、じりんを追い詰めた気迫は多くの人々に感動を与えた。

第21回川口カップのファイナルは、まさに川口カップの決勝にふさわしい、とても素晴らしい試合となった。

この大舞台の決勝戦で、最後まで戦い抜いた両チームの選手には、心より大きな拍手を送りたい。